

# 学生図書委員だより

発行 二〇〇九年二月

編集 学生図書委員

No.11

## 文豪と身近き 夏目漱石

日本で一番有名な文豪といえば？ たぶん十人のうち、六・七人は「夏目漱石」と言うんじゃないでしょうか。

教科書にも必ず載っている作家ですからね。でも、本としてきちんと読むとなると話は別。漱石入門に最適なものは、なんと言っても『夢十夜』！小説というより、物語の見本のような傑作の数々が収められた、贅沢な連作です。はつきり言って、これを上回る連作短編はそうそうないですよ。次に読みやすいのは『坊ちゃん』でしょうか。歯切れがよくて、登場人物が面白く、キャラクター小説としても読めるのでオススメです。

大学生なら、『三四郎』『それから』『門』の三部作を読めと言われそうですが、うーん、漱石がいろいろ考えすぎてる(?)ので、正直ちょっと読みにくいです。『こころ』も同じく。漱石というとなにかと『こころ』ばかり取り上げられますが、そんなに『こころ』って傑作かなあ？

## 大塚かみ出版社マップ 岩波書店

もし、岩波文庫を日常的に読んでいる、という人がいたなら、それは相当の読書玄人です。というか、いっぱしの知識人です。インテリです。

岩波書店といえば、品行方正にして出版界の超保守派。他の出版社とは一線を引く存在というイメージがあります。

古今東西の名作を扱う岩波文庫は、文学学生にとっては一ひとつの目標地点と言えましょう。ちょっと敷居は高いですが、燦然と輝く名作の数々を目指してみるのも、大学生として一興かも。

られる一冊です。

なりゆきで人工衛星を作ることになった工業高校生が主人公の『2005年のロケットボーイズ』（五十嵐貴久）では、日本の高校生が宇宙を目指します。寄せ集めの仲間が困難を乗り越えていく、爽快なストーリー。

続いては写真集。『月光浴』（石川憲治）は、なんと満月の光だけを光源にして撮影された、驚きの一冊。太陽の明るさとは違う、月の光の神秘的で優しい光は、今まで見たことのない美しさです。続編も多数あり。

さて、最後に童話ともファンタジーともつかない『星兎』（寮美千子）を。「僕」の前に突然現れた「つさぎ」はどこから来たのか？ 限りなく澄んで、それゆえに物悲しさを感じさせる

大人のための児童書です。

宇宙をテーマにした本にはこういう哲学的な子ども本が多くて、何と言ってもその代表作は『星の王子さま』と『銀河鉄道の夜』でしょう。この二冊はそれぞれ、星の寿命ほど長生きする名作ですよ。

## 今月の一首

月面に脚が降り立  
しそのときもわれらは  
愛し愛されたきを

村木道彦

目を閉じれば、足元に  
青い地球が見える。君と  
なら、宇宙はすぐそこ。

## 特集

# 星に願いを、宙に夢を。

私たちのいる銀河系宇宙は、直径十  
万光年、厚さ一萬光年、重さが太陽の  
二千億倍、だそつです。・・・なんて言  
われても「？」としか言いようがあり  
ませんが、それぐらい宇宙は大きいっ

てことなのでしょ  
う。今月はそんな、  
広くて果てしない  
宇宙と星の特集で  
す。

まずは、いいい  
しんじの『プラネ  
タリウム』のふた  
ご。星の見えない  
村で生まれた双子  
は、一人は手品師  
に、もう一人は星  
の語り部に。闇の  
中で不思議に温か  
な星の輝きを感じ